

広
報

なすからすやま

No.139

Public Relations Magazine of Nasukarasuyama City



特集 平成29年度の主な事業と予算…	2
第1回市議会定例会 ……	6
市職員の人事異動…	8
七福神プロジェクトで地域資源を発掘！…	10
サタデマンド…	12
表彰・優秀選手の紹介など…	14
卒業・卒園おめでとう…	16
けんこう・消費者コラム…	17
まちのわだい…	18
インフォメーション…	20
シリーズ 鳥山高校ってこんなところ！…	22



2017

4
April

涙、そして笑顔の卒業式(3月17日、江川小学校にて)

特集

平成29年度の主な事業と予算

平成29年度的那須烏山市一般会計、7つの特別会計、企業会計の予算がまとまりました。

本市の財政状況は、歳入においては、自主財源が全体の34・2%と引き続き低率であり、地方交付税、臨時財政対策債、国県補助金などの依存財源に偏った形となっており、財源確保に苦慮している状況です。

一方で、歳出については、合併特例債発行額による市債償還金や少子高齢化の進展による扶助費、医療費の増加に伴う国民健康保険、介護保険などへの繰出金など、今後の将来負担を含め、一層厳しい財政運営が予想され、財政健全化への取り組みが急務となっています。

このような中で、平成29年度は、「市総合計画後期基本計画」の総仕上げの年として、さらには、ユネスコ無形文化遺産登録を果たした「烏山の山あげ行事」や「JR烏山線」といった地域資源を最大限に活用し、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、より一層骨太な戦略へと確立するため、地方創生関連各種施策に取り組むこととします。

平成29年度の予算編成にあたっては、「選択と集中」の基本的考え方の下、「中期財政計画」「公共施設等総合管理計画」に基づきながら、予算規模の適正化を進め、「財政健全化への取り組みと地方創生総合戦略の両立に最大限配慮した予算編成」としました。

今月号は、年度初めにあたり、これから1年間、市ではどのような事業に取り組むか、予算はどのように使われていくのかを紹介します。

健全化と地方創生総合戦略の に配慮したまちづくりを



平成29年度の重点事業(○は新規事業)

■居心地のよい安全なまちづくり

- ・デマンド交通運行管理 4,221万円
- ・若者世帯に対する民間賃貸住宅家賃の助成 500万円

- ・定住促進住まいづくり奨励金 1,800万8千円

- ・消防ポンプ自動車整備等 3,018万1千円

- 立地適正化計画策定経費 378万円

■安心して暮らせる思いやりのまちづくり

- ・那須南病院における病児保育事業 916万4千円

- 子育て世代包括支援センター事業総務費 302万9千円

- こどものインフルエンザ予防接種補助金 306万円

■人と文化を育むふれあいのまちづくり

- ・ジオパーク構想推進事業 1,834万6千円
- ・ユネスコ無形文化遺産保存事業 750万6千円

- ・なすから英語塾運営経費 1,238万2千円
- ・武道館外構整備 6,000万円

■活力あるにぎわいのまちづくり

- JR烏山線沿線まちづくり推進事業 500万円

- 地域の学校を核とした地域創生事業 55万円

- ・中山かぼちゃブランド力向上支援事業 100万円

- 八溝そばブランド力向上支援事業 50万円

- 園芸用パイプハウス等施設に対する助成 97万2千円

- ・プレミアム付商品券発行支援事業 1,500万円

- ・ユネスコ無形文化遺産活用推進事業 410万円

■市民とともにあゆむ行政経営

- ・まちづくり団体支援事業 672万7千円
- 地域おこし協力隊活動経費 1,135万7千円

■無駄のない自律的な行政経営

- ・総合計画策定支援経費 644万8千円
- ・ふるさと応援寄附金返礼品取りまとめ業務委託経費 369万7千円



財政 両立

4つの重点戦略の紹介

4つの重点戦略の中から、今年度、継続や新たに取組む主な事業を紹介します。

■定住を促すまち戦略

「企業誘致事業」「定住住まいづくり事業」「民間賃貸住宅家賃補助事業」「住宅リフォーム助成事業」を継続的に取組みます。交流人口の増加を図るための新規事業として、「JR烏山線沿線まちづくり推進事業」と「地域の学校を核とした地方創生事業」を「七福神プロジェクト」と称して取組みを開始します。このプロジェクトは、高根沢町と連携し設立した「JR烏山線沿線まちづくり推進協議会」による事業を本格化し、市の重要な地域資源である「JR烏山線」や「烏山高校」に加え、「高根沢高校」や「民間企業」との連携を広域的に広げ、官民を挙げた交流人口増加に向けて各種施策の展開を図ります。

平成29年度は、「烏山の山あげ行事」がユネスコ無形文化遺産に登録された直後の山あげ祭開催や、平成30年度に本番を迎えるデステイネーションキャンペーンのプレ実施とも重なる年となるため、「観光振興事業」「ユネスコ無形文化遺産活用推進事業」に取組み、外国人を含めた観光客の誘客やおもてなしなど、観光PRの強化を図ります。

農業の振興に関する事業については、本市の特産品「中山かぼちゃ」のブランド力向上と新規就農者への市独自の支援策を引き続き行います。また、「八溝そば」のブランド力向上を推進するため「八溝そばブランド

力向上支援事業」や園芸作物を振興するため「園芸振興事業」を新たに開始します。

■快適・便利なまち戦略

「防災行政情報通信管理事業」として、災害時の情報発信手段である、防災行政無線、防災メール、とちぎテレビのデータ放送、防災ラジオを引き続き運用し、的確に伝達できるような体制整備を図るとともに、自主防災組織活動の活性化を図るため「災害対策事業」として支援や整備を進めます。

また、循環交通網整備のため「デマンド交通運行管理事業」を継続的に取組むほか、「土曜日運行代替措置実証実験」を行い、市民サービス向上に向けたニーズ把握に努めます。中心市街地活性化のための新規事業としては、「商店会にぎわい支援事業」を開始し、商店会などが主催するイベントなどの経費に対して助成し、交流人口増加策と連動した市街地の活性化を進めていきます。

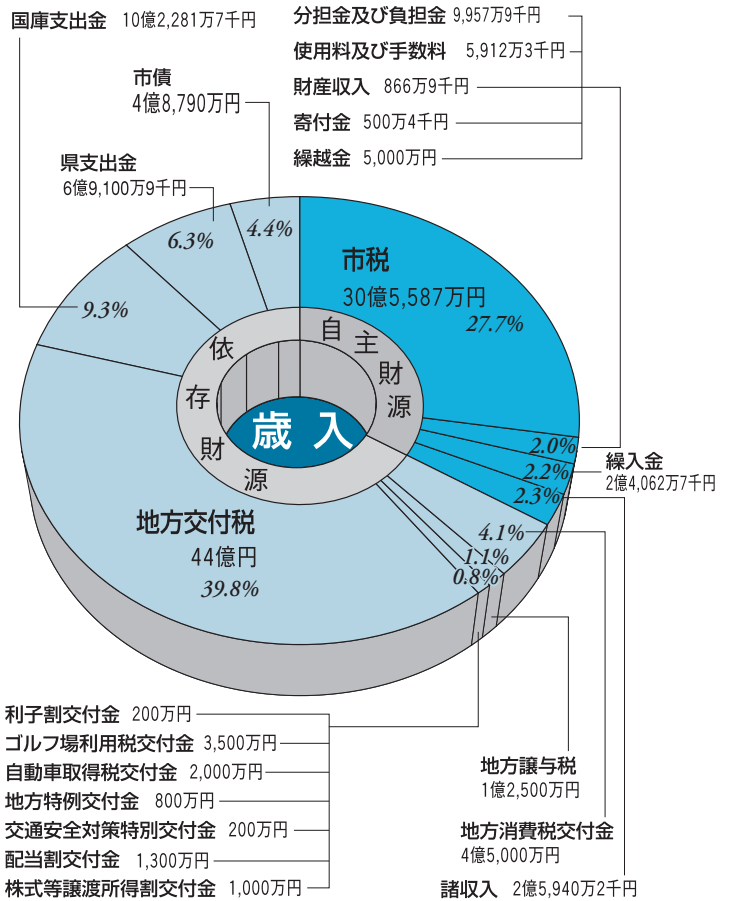
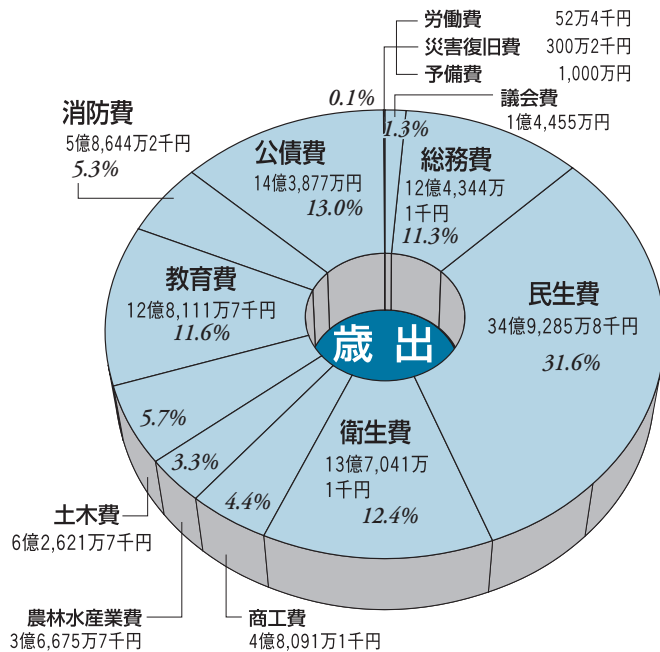
■健康・子育てのまち戦略

市民の健康を支援するための新規事業として、生活習慣病にかかる医療費を、地域資源を有効に活用した予防・健康管理にシフトさせる「ヘルスツーリズム事業」や、市民の健康づくり活動への参加を促進するため「健康マイレージ事業」を開始します。また、子どものインフルエンザ予防接種費用に対し、一部助成を行うことで、医療費の抑制と子育て支援の更なる充実を図ります。

子育て環境の充実については、子育ての充実をさらに推進するため「子育て世代包括支援センター事業」を開始します。この事業は、国が平成32年度までに全国展開をす

一般会計

29年度 110億4,500万円
前年度 114億8,400万円
差 引 ▲4億3,900万円



ることとしているもので、妊娠中から出産、子育てまで切れ目のない支援充実に努めます。また、「那須南病院における病時保育事業」も新たに開始します。これは、保護者の勤務の都合や病気により、家庭保育が困難な場合でも、身近な病院で専門の看護師や保育士に看護や保育を委託することが可能となり、保護者の負担軽減を図るものです。

■教育・文化のまち戦略

特色ある教育を推進するため、引き続き、「英語コミュニケーション事業」として、市内全小・中学校に外国語指導助手を配置し、英語コミュニケーション能力の向上を図ります。また、新たに「イングリッシュセミナー事業」を創設し、小学校高学年を対象に、生きた英語による国際感覚を身につけるため、イングリッシュキャンプを実施します。

生涯学習の充実については、「グローバル人材育成事業」を、「七福神プロジェクト」の1事業として拡充し、これまで実施してきた「なすから英語塾」の外国語指導員を増員し、インバウンド(外国人誘客)の観点から観光ガイド養成を進めます。

芸術・文化の環境整備については、「ユネスコ無形文化遺産保存事業」として、「烏山の山あげ行事」「ユネスコ無形文化遺産登録を記念し、山あげ行事企画展を開催するほか、烏山山あげ保存会や山あげ道具類保存修理への支援を行います。

また、日本ジオパーク認定を目指す「ジオパーク構想推進事業費」について、平成30年度に築城600年を迎える「烏山城跡」を重要なジオサイトと位置づけし、文化財保護

と交流人口増加の観点から整備を進めます。

一般会計当初予算 110億4500万円

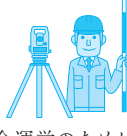
一般会計は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った各種施策に取り組み一方で、武道館本建物の工事終了や南那須中学校体育館改修工事終了、道路整備事業費の減額などにより、総額は前年度予算に対し、4億3900万円、3.8%減の110億4500万円、2年連続の減額となりました。

一般会計歳入予算

主なものとして、市税は、前年度予算に対し、3.7%増の30億5587万円を計上しました。その中でも、市民税は、個人・法人市民税ともに前年度とほぼ同額程度を見込み、固定資産税は、償却資産の伸びから前年度比5.7%を見込みました。また、地方消費税交付金は、社会保障の財源確保のため、8%に引き上げられていることから、前年度予算同額の4億5000万円としました。地方交付税は、地方財政計画及び合併算定の縮減を勘案し、前年度予算同額の約44億円を計上。なお、普通交付税は、前年度確定額の約41億1400万円に対して、39億円を見込みました。国庫支出金は、認定子ども園施設増に伴う子どもたちのための教育・保育給付費負担金や地方創生推進交付金増額により前年度予算に対し、6.0%増の10億2281万7千円としました。さらに、市債は、道路整備事業の合併特例債、辺地道路整備事業の辺地対策事業債などを計上。武道

市民1人・1世帯あたりに使われる予算

○人口27,600人○世帯数10,622戸
(平成29年1月1日現在の住民基本台帳人口)

一般会計 110億4,500万円 400,181円／人 1,039,823円／世帯 	議会費 1億4,455万円 5,237円／人 13,609円／世帯  議会運営のために	総務費 12億4,344万1千円 45,052円／人 117,063円／世帯  市のさまざまな総合運営のために	民生費 34億9,285万8千円 126,553円／人 328,832円／世帯  市民の福祉のために	衛生費 13億7,041万1千円 49,653円／人 129,016円／世帯  健康診断・予防接種、ごみの回収処理のために
農林水産業費 3億6,675万7千円 13,288円／人 34,528円／世帯  農業振興、農地保全のために	商工費 4億8,091万1千円 17,424円／人 45,275円／世帯  商工業の育成・観光事業の推進のために	土木費 6億2,621万7千円 22,689円／人 58,955円／世帯  市道整備・公園・下水道整備などのために	消防費 5億8,644万2千円 21,248円／人 55,210円／世帯  消防活動のために	教育費 12億8,111万7千円 46,417円／人 120,610円／世帯  義務教育・生涯学習の推進・スポーツ振興のために

特別会計

■国民健康保険(事業勘定)

29年度	41億6,611万8千円
前年度	40億5,130万5千円

■国民健康保険(診療施設勘定)

29年度	7,352万3千円
前年度	7,388万8千円

■熊田診療所

29年度	5,174万3千円
前年度	5,007万3千円

■後期高齢者医療

29年度	3億1,681万3千円
前年度	3億2,740万3千円

■介護保険

29年度	25億5,020万円
前年度	25億5,200万円

■農業集落排水事業

29年度	5,710万円
前年度	5,900万円

■下水道事業

29年度	4億1,050万円
前年度	3億5,640万円

■簡易水道事業

29年度	1億407万4千円
前年度	9,476万円

企業会計

■水道事業

□収益的収入	
29年度	5億5,997万6千円
前年度	5億6,583万3千円
□収益的支出	
29年度	4億9,652万3千円
前年度	5億1,835万5千円
□資本的収入	
29年度	4,184万2千円
前年度	4,485万2千円
□資本的支出	
29年度	2億7,947万8千円
前年度	2億9,902万2千円

公債費

14億3,877万円
52,129円／人
135,452円／世帯



市の借入金の返済のために

その他

1,352万6千円
490円／人
1,273円／世帯



労働費
(臨時雇用)・予備費など

一般会計歳出予算

館本体建物の終了や臨時財政対策債の減額により、前年度予算に対し、45.7%減の4億8790万円となりました。

目的別で主なものをみると、総務費は、地域おこし協力隊事業費やJR烏山線沿線まちづくり推進事業費の増額などにより、0.2%増の12億4344万1千円を計上しました。民生費は、国民健康保険繰出金の減額はあるものの、ここに保育施設整備費や市立保育施設運営委託事業費の増により、0.2%増の34億9285万8千円。衛生費

特別会計・企業会計

特別会計は前年度と比べると、国民健康保険の事業勘定を2.8%増の41億6611万8千円、施設勘定が0.5%減の7352万3千円となりました。そのほか、熊田診療所を3.3%増の5174万3千円、後期高齢者医療を3.2%減の3億1681万3千円、介護保険が0.1%減の25億5020万円、農業集落排水事業を3.2%減の5710万円、下水道事業を15.2%増の4億1050万円、簡易水道事業を9.8%増の1億407万4千円を計上しました。

企業会計の水道事業は、前年度と比べて、収益的収入を1.0%減の5億5997万6千円、収益的支出を4.2%減の4億9652万3千円としました。また、投資的経費である資本的収入は6.7%減の4184万2千円、資本的支出を6.5%減の2億7947万8千円としました。

総合政策課 ☎ 0287-831112



新たな年度の幕開けを前に

新旧年度予算を審議・可決

平成29年第1回市議会3月定例会が2月28日(火)から3月16日(木)までの17日間で開かれ、平成29年度当初予算、28年度補正予算、条例の制定及び一部改正案など41議案が原案どおり可決されました。
詳しくは、議会事務局 ☎ 0287-88-7114 までお問い合わせください。

平成29年度当初予算

平成29年度の一般会計と7つの特別会計及び企業会計の当初予算が決まりました。詳しくは2〜5ページをご覧ください。

平成28年度予算は

8会計を補正

平成28年度一般会計の歳入・歳出それぞれ4770万円増の補正後の予算総額を121億7426万3千円としました。

特別会計では、国民健康保険の事業勘定を2430万7千円減の42億1434万6千円。施設勘定は、10万4千円増の7464万7千円としました。後期高齢者医療は、1219万3千円減の3億1521万円、介護保険は2693万3千円減の26億1801万3千円、農業集落排水事業は、15万2千円増の5915万2千円、下水道事業は、10万8千円増の3億5854万8千円、簡易水道事業は45万3千円減の1億105万7

千円としました。

企業会計の水道事業は、収益的収入を136万9千円増の5億6761万円、収益的支出を59万6千円増の5億2563万4千円としました。また、資本的収入を187万1千円増の4672万3千円としました。

条例の制定・一部改正・廃止

・中小企業振興の基本となる事項を定めることにより、中小企業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、中小企業における事業の持続的発展、地域経済の活性化及び市民生活の向上に寄与するため、「市中小企業振興基本条例」を制定しました。
・個人情報保護法及び行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴い、「市個人情報保護条例」及び「市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例」を一部改正

しました。

・選挙運動に伴う自動車の使用、ビラの作成及びポスターの作成に関する公費負担における限度額単価を引き上げるため、「市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例」を一部改正しました。

・分限処分(降任・免職・休職)の要件をより明らかにし、適切な処分を行うことができるよう、「市職員の分限の手続及び効果に関する条例」を一部改正しました。

・フレックスタイム制度の導入、育児に係る子の範囲の拡大、介護休暇の分割取得、介護時間の新設などに伴い、「市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例」「市職員の育児休業等に関する条例」「市技能労務職員給与条例」「市水道事業企業職員給与条例」を一部改正しました。

・農業委員会委員の報酬額を引き上げたため、「市非常勤特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例」を一部改正しました。

・施設の長及び主任介護支援専門員の賃金を設定するため、「市嘱託職員及び臨時的任用職員の任用、給与その他の勤務条件に関する条例」を一部改正しました。

・地方税法、地方税法施行令の一部が改正されたことに伴い、「市税条例」を一部改正しました。

・医療機関などが発行する診療報酬明細書に係る一部負担金などの助成の廃止などに伴い、「市重度心身障害者医療費助成条例」「市ひとり親家庭医療費助成条例」「市妊産婦医療費助成条例」を一部改正しました。

・地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律により、地域密着型サービスに地域密着型通所介護が創設されたことに伴い、「市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準等に関する条例」を一部改正しました。

・荒川放課後児童クラブについて、1クラブを2クラブに分割するため、「市放課後児

児童健全育成事業実施条例」を一部改正しました。

・放課後児童支援員の資格要件の中に義務教育学校の教諭となる資格を有する者を加えるため、「市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を一部改正しました。

・市の施設の管理について、指定管理以外でも管理、運営が可能とするため、「市民ふれあい農園設置、管理及び使用料条例」、「市山あげ会館設置、管理及び使用料条例」、「市龍門ふるさと民芸館設置、管理及び使用料条例」、「市立図書館設置及び管理料条例」、「市大金駅前観光交流施設設置、管理及び使用料条例」を一部改正しました。

・市ふれあい交流体験館施設を廃止し、普

通財産とするため、「市ふれあい交流体験館設置、管理及び使用料条例」を一部改正しました。

・工場立地法の改正に伴い、「市工場立地法準則条例」を一部改正しました。

・市公民館の休日を見直すため、「市公民館設置、管理及び使用料条例」を一部改正しました。

・自家用有償バス事業の円滑な運営を目的に創設した当該基金について、平成28年度をもって事業充当を完了することに伴い、「市自家用有償バス事業基金設置及び管理条例」を廃止しました。

・市農業者健康増進施設を廃止し、普通財産とするため、「市農業者健康増進施設設置及び管理条例」を廃止しました。

・議員発議により、市議会の議員の定数を18人から17人にするため、「市議会議員定数条例」を一部改正しました。

・議員発議により、総務企画常任委員会の定数を6人から5人にするため、「市議会委員会設置及び運営条例」を一部改正しました。

各委員の人事

・市監査委員の岡敏夫氏が平成29年3月31日で辞任することに伴い、新たに、瀧田晴夫氏を任命しました。

・人権擁護委員の小鍋法仁氏と滝原一夫氏が平成29年6月30日に任期満了となることに伴い、引き続き滝原氏と、新たに鈴木善雄氏を候補者として推薦しました。

議決事項

・国の広域行政圏計画策定要綱が平成20年度をもって廃止されたことに伴い、南那須地区広域行政事務組合の共同処理する事務の一部を廃止するため規約を変更することについて関係市町と協議することを可決しました。

・平成28年3月に閉校となった旧江川小学校跡地について処分することを可決しました。

那須烏山市教育委員会会報

28年度『第4四半期』1月～3月

第1回教育委員会(1月20日(金))

○就学指定校の変更を承認

○要保護及び準要保護児童生徒の認定を承認

第2回教育委員会(2月15日(水))

○就学指定校の変更を承認

○区域外就学の許可を承認

○平成28年度市教育費予算の補正を決定

○平成29年度市教育費予算を決定

○市公民館設置、管理及び使用料条例の一部改正を決定

○市農業者健康増進施設設置及び管理条例を廃止する条例の制定に伴う市運動施設設置、管理及び使用料条例の一部改正を決定

第3回教育委員会(3月3日(金))

○平成29年度小・中学校職員定期異動方針を決定

第4回教育委員会(3月24日(金))

○就学指定校の変更を承認

○区域外就学の許可を承認

○要保護及び準要保護児童生徒の認定を承認

○平成29年度小・中学校職員定期異動を承認

○平成29年度市教育委員会関係職員の人事異動内示を承認

○市生涯学習指導員の任命を承認

○市烏山地区公民館管理人の委嘱を承認

○市公民館に勤務する職員の勤務時間及び休憩時間に関する規程の制定を決定

○市青少年野外活動広場管理規則の一部改正を決定

○市立図書館設置及び管理条例施行規則の一部改正を決定

▼その他の出席

・1月8日(日) 成人式

・1月15日(日) 市駅伝競走大会

・2月11日(土) サタデースクール閉校式

・3月9日(木) 市内中学校卒業式

・3月17日(金) 市内小学校卒業式

・3月31日(金) 退職者辞令交付式

議会報告会を初開催

3月定例会の審議内容を報告

市議会議員18人で構成する議会改革調査特別委員会による、「議会報告会」が3月25日(土)、那須烏山消防署で開かれ、地域住民41人が参加しました。



初開催となった議会報告会。

同委員会は市民にとって、より身近で開かれた議会のあり方について調査・研究するため、昨年6月に設置したもの。これまで議会ICT化、議員定数、議会基本条例などについて検討してきており、同報告会は、議会基本条例検討の一環として試行的に開催したものです。

当日は、3月の定例会で審議された平成29年度当初予算の概要や各常任委員会の意見報告などがされたあと、議員と地域住民との間で活発な意見交換が行われました。

市職員の人事異動

4月1日付けで、市職員の人事異動がありましたのでお知らせします。

主な変更点は、総務課人事行政グループ(以下「G」と表記を「人事G」と「行政G」に、こども課そだて支援Gを「こそだて支援G」と「母子保健G」に、生涯学習課生涯学習Gを「生涯学習G」と「公民館G」に分割し、43Gとしました。また、総合政策課秘書政策Gの業務に「庁舎整備計画担当」、まちづくり課まちづくりGに「道の駅整備計画担当」、文化振興課内に「ジオパーク推進室」を新設しました。

◎印Ⅱ昇任、()内Ⅱ異動前の職(再)Ⅱ再任用、課内の並びは順不同。グループ名は省略させていただきます。

■総合政策課

- ◎参事兼課長 両方裕(文化振興課長)
- ◎主幹兼総括 齋藤浩文(課長補佐)
- ◎課長補佐 高野成彰(文化振興課課長補佐)
- ◎係長 櫻井修(生涯学習課主査)
- ◎主任 小堀佑真(学校教育課主事)
- ◎主任 佐藤知歩(主事)
- ◎専門員(再) 坂本正一(新再任用)
- まちづくり課
- ◎主幹兼総括 星貴浩(課長補佐兼総括)
- ◎主幹兼総括 小原沢一幸(こども課課長補佐兼総括)

■総務課

- ◎課長 福田守(福祉事務所長兼健康福祉課長)
- ◎主幹兼総括 大谷光幸(課長補佐兼総括)
- ◎課長補佐 黒尾明美(生涯学習課課長補佐兼総括)
- ◎主幹兼総括 菊地唯一(課長補佐兼総括)
- ◎課長補佐兼総括 大森隆一(総合政策課係長)
- ◎主査 矢口妙恵(健康福祉課係長)
- ◎専門員(再) 清水敏夫(新再任用)

- ◎主任 水井健太(税務課主事)
- ◎主事 田嶋広貴(税務課主事)

■こども課

- ◎課長兼こども館長 神野久志(学校教育課主幹兼総括)
- ◎課長補佐兼総括 久保居文子(係長)
- ◎保健師主幹兼総括 野崎真理子(保健師副主幹兼総括)
- ◎主幹兼総括 小口正一(総務課課長補佐兼総括)
- ◎課長補佐 草分知賀子(こども課係長)
- ◎主査 櫻井崇(総務課主査)
- ◆こども館
- ◎専門員(再) 羽石徳雄(新再任用)
- ◎専門員(再) 佐藤久子(新再任用)

◆七合保育園

- ◎保育士主幹兼園長 鈴木恵美子(保育士副主幹兼副園長)
- ◎保育士副主幹兼副園長 大谷雅代(にこにこ保育園保育士係長)
- ◎保育士主任 神永加奈子(すくすく保育園保育士主任)

■商工観光課

- ◎課長補佐兼総括 関雅人(総合政策課課長補佐)
- ◎主査 大坪美香(議世事務局主査)
- ◎主査 平野祐太郎(主任)

■環境課

- ◎課長補佐兼総括 吉葉克則(係長)
- ◎係長 篠崎孝光(都市建設課係長)
- ◎専門員(再) 佐藤新一(生涯学習課専門員)

■都市建設課

- ◎課長補佐兼総括 永島一広(農政課係長)
- ◎課長補佐 川俣由利子(係長)
- ◎主幹兼総括 菊池章夫(課長補佐兼総括)
- ◎課長補佐兼総括 荒井隆郎(係長)
- ◎主任 小口大輔(栃木県土木整備部島山土木事務所付主事)

■上下水道課

- ◎課長 佐藤光明(都市建設課主幹兼総括)
- ◎課長補佐 尾崎さゆり(係長)
- ◎主幹兼総括 相ヶ瀬一彦(課長補佐兼総括)

- ◎課長補佐 江守浩史(係長)
- ◎学芸員主査 鈴木芳英(学芸員主任)
- ◎主任 谷口寛明(栃木県総合政策部地域振興課まちづくり課付主事)

■市教育委員会職員

- 鳥山小学校主任事務員 吉澤里美(江川小学校主任事務員)
- 鳥山中学校主任事務員 阿久津光一(鳥山小学校主任事務員)
- 南那須中学校主任事務員 大野久雄(鳥山中学校主任事務員)

■派遣職員

- 南那須地区広域行政事務組合総務課付主幹 澤村誠一(農政課主幹兼総括)
- 栃木県総合政策部市町村課総務課付主事 星貴裕(健康福祉課主事)
- 栃木県総合政策部地域振興課まちづくり課付主任 伊藤大道(まちづくり課主事)
- 栃木県土木整備部島山土木事務所都市建設課付主任 木嶋健太(都市建設課主任)
- 栃木県矢板県税事務所税務課付主事 瀧澤理恵(税務課主事)
- 栃木県後期高齢者医療広域連合市民課付主任 岡真史(栃木県後期高齢者医療広域連合市民課付主任)

■新採用職員

- 総合政策課主事 石井勇多
- 総合政策課主事 玉造結衣
- 総合政策課主事 岡山千夏
- まちづくり課主事 川原慧子
- 税務課主事 佐藤陽亮
- 市民課主事 高田千紘
- 健康福祉課主事 平山穂那美
- こども課すくすく保育園保育士 大谷恵理

■ 税務課

- 課長 水上和明(まちづくり課主幹兼総括)
- 主幹兼総括 皆川康代(農政課課長補佐)
- 主幹兼総括 川俣謙一(課長補佐兼総括)
- 課長補佐兼総括 木曾賢治(農政課係長)
- 係長 東原一吉(会計課係長)
- 係長 田澤浩美(こども課係長)
- 主事 塩野淳(健康福祉課主事)

■ 市民課

- 課長補佐兼総括 大森真喜子(係長)
- 課長補佐 深野葉子(係長)
- 主幹兼総括 塩野育雄(課長補佐兼総括)
- 係長 鈴木達也(税務課主査)
- 主査 小堀久美(税務課主査)
- 保健師 原田美香(健康福祉課保健師)
- 専門員(再) 黒崎秋子(専門員)
- ◆七合診療所
- 専門員(再) 諸澤光男(新再任用)

■ 健康福祉課

- 福祉事務所長兼課長 稲葉節子(保健師主幹兼総括)
- 主幹兼総括 高濱裕子(課長補佐兼総括)
- 課長補佐 塩野目敬章(係長)
- 保健師主幹兼総括 星由美子(保健師副主幹兼総括)
- 保健師副主幹 海老原朋子(保健師係長)
- 保健師副主幹兼総括 大橋弘代(保健師副主幹)
- 保健師副主幹 仲山直美(保健師係長)
- 係長 藤田善永(主査)
- 主査 鈴木明美(市民課主査)

- 社会福祉主査 堀江崇(社会福祉主事)
- 主査 齊藤奈緒(主任)
- 管理栄養主査 高野麻美(管理栄養主事)

- 保育士主任 阿部孔子(くく幼稚園教諭主任)
- 保育士主任 佐藤優紀(保育士)
- 業務員(再) 雲洋子(新再任用)
- ◆すくすく保育園

- 保育士副主幹兼副園長 榎由美子(保育士係長兼副園長)
- 保育士主査 高津戸正子(にこにこ保育園保育士主査)
- ◆にこにこ保育園

- 保育士主幹兼園長 勝治範子(保育士副主幹兼園長)
- 保育士副主幹兼副園長 大森弥生(保育士係長兼副園長)
- 保育士 小口しおり(すくすく保育園保育士)
- 保育士専門員(再) 渡辺喜代子(新再任用)
- ◆くく幼稚園
- 囑託園長 川原良明

- 教諭副主幹兼副園長 黒崎明子(教諭係兼副園長)
- 教諭主査 村上まさみ(七合保育園保育士主査)
- ◆農政課
- 課長 菊池義夫(主幹兼総括)
- 主幹兼総括 深澤宏志(税務課課長補佐兼総括)
- 課長補佐 古葉由喜子(係長)
- 主幹兼総括 大貫信行(こども課こども館課長補佐兼館長)
- 課長補佐 五味洸徹(係長)

- 主幹兼総括 高田勝(課長補佐兼総括)
- 係長 佐藤美奈子(市民課主査)
- 主任 宇井章記(上下水道課主任)
- 主任 高橋昌弘(栃木県農政部農村振興課付主任)
- 主事 堀江陸央(総合政策課主事)
- 主事 大橋伴美(都市建設課主事)

- 専門員(再) 奥澤隆夫(新再任用)

■ 会計課

- 会計管理者兼課長 滝田勝幸(主幹兼総括)
- 課長補佐兼総括 草分信也(学校教育課係長)
- 係長 薄井美香(こども課こども館係長)

■ 議事事務局

- 参事兼事務局長 水沼透(事務局長)
- 局長補佐兼総括 菊地静夫(税務課課長補佐兼総括)
- 主任 市村好絵(生涯学習課主事)

■ 学校教育課

- 主幹兼総括 大谷啓夫(総合政策課主幹兼総括)
- 主幹兼総括兼管理主事兼指導主事 大金仁(課長補佐兼指導主事)
- 課長補佐兼指導主事 関奈都子(荒川小学校教諭)
- 主査 村上和史(総合政策課主査)
- ◆学校給食センター
- 主幹兼所長 安藤準一(課長補佐兼所長)

- ◆境小学校
- 業務員(再) 笹崎洋子(業務員)
- ◆烏山中学校
- 司書主幹 和久貴子(司書副主幹)

■ 生涯学習課

- 課長補佐兼総括 山村信(商工観光課課長補佐兼総括)
- 課長補佐兼総括 相ヶ瀬仁志(係長)
- 主幹 木島好一(都市建設課主幹兼総括)
- 主事 山本結莉花(商工観光課主事)
- 専門員(再) 齋藤進(新再任用)

■ 文化振興課

- 課長 糸井美智子(農政課長)
- 主幹兼総括 大鐘智夫(議事事務局局長補佐兼総括)
- 主幹 小峯洋一(課長補佐)

- こども課にこにこ保育園保育士 小堀有希

- 農政課主事 清水晴希
- 都市建設課技師 平塚良一郎
- 学校教育課臨床心理士 小林香文
- 生涯学習課主事 小松聡
- 生涯学習課主事 鈴木由乃

■ 退職職員

- 参事兼総合政策課長 坂本正一
- 参事兼総務課長 清水敏夫
- 参事兼税務課長 小口久男
- 総務課付課長(南那須地区広域行政事務組合派遣) 川俣秀夫
- こども課長 齋藤進
- 上下水道課長 奥澤隆夫

- 会計管理者兼会計課長 羽石徳雄
- こども課七合保育園主幹兼園長 渡辺喜代子
- こども課くく幼稚園教諭主幹兼園長 羽石典子
- 環境課主幹兼総括 清水康雄
- こども課こども館課長補佐 佐藤久子

- 市民課七合診療所係長 諸澤光男
- こども課七合保育園主任調理員 雲洋子
- 農政課課長補佐 五月女英子
- 市民課主幹兼総括 鈴木孝子

- 文化振興課主幹兼総括 木下実
- 生涯学習課課長補佐兼総括 鈴木貢則
- 市民課課長補佐 高橋範子
- 学校教育課主幹兼総括兼管理主事兼指導主事 内藤雅伸(栃木県職員に復職)

- 南那須中学校主任事務員 刈部裕之
- 総合政策課専門員(再) 福田光宏
- 農政課専門員(再) 高田喜一郎
- 栃木県総合政策都市町村課主事併農政課主任 早乙女尚之(交流終了)

JR烏山線沿線まちづくり推進協議会

七福神プロジェクトで

地域資源を発掘！

JR烏山線沿線の本市と高根沢町、栃木銀行、JR東日本で構成される「JR烏山線沿線まちづくり推進協議会」の活動が始まりました。同協議会は、地方創生のための「JR烏山線沿線まちづくり推進事業」七福神プロジェクトを具体的に進める組織として今年1月に設立。「烏山高校や高根沢高校、民間企業と連携し、地域資源を生かしたモニターツアーの実施」「ローカルブランド力向上に向けた新商品の開発」「JR烏山線の利用向上のため地域資源を組み合わせたプロモーション活動」などを事業として取り組み、平成30年までに両市町で約23万人の観光客増などを目標としています。

地域資源を最大限に生かした ローカルブランド力の向上を目指す

「地域間コラボレーションによる地域商品づくり×仕組みづくり」



新たな商品を提案する参加者。

事業の一環として、3月9日(木)、広域連携によるローカルブランド力の向上に向けた調査報告会と基調講演会が高根沢町元氣あつぷむらで開かれ、地域住民など81人が参加しました。

調査報告では、大日本印刷(株)の平川孝さんにより、ウェブ調査や両市町来訪者へのインタビュー、国の地域経済分析システム(RESAS)から分析した両市町の地域資源や課題などが報告されました。また、基調講演では、東京農業大学名誉教

高校生と企業がコラボ 両市町の地域資源素材を調査

「高等学校×企業コラボレーションによる地域資源創出事業」



地域資源について話し合う地域おこし協力隊と生徒。

授の小泉武夫さんによる「食と健康によるまちづくり」をテーマにした講演が行われ、小泉さんが専門とする醸造学や発酵学の視点から食と健康でまちおこしを行う自治体の事例などが紹介されました。この講演をもとに3月17日(金)に行われたワークショップでは、29人が参加し、「食と健康」をキーワードに両市町の食材を活用したまちづくりについて意見交換が行われ、新たな商品のブランド化などが提案されました。

として、両市町の地域資源を訪ねるモニターツアーを実施するため、

2月17日(金)、烏山高校と高根沢高校の生徒が

両市町の観光振興策の内容と課題について理解を深めることを目的とした地域資源素材調査が烏山高校で行われ、両校の生徒7人が参加しました。

当日は、本市の職員から観光振興策と課題が話されたほか、本市の地域おこし協力隊と生徒で「どんなまちにしたいか」をテーマに話し合いが行われ、今後のまちづくりについて考えるうえで有意義な時間となりました。

◇
3月18日(土)には、同事業の一環として、JR上野駅で行われた「栃



アキウム展示が行われた上野駅。

木産直市」に合わせ、JR烏山線走るアキウムの車両展示会が行われました。

この日は、両市町の職員のほか両校の生徒4人が上野駅を訪れ、駅利用客や鉄道ファンに観光パンフレットを配るなどまちの魅力を発信しました。アキウム車内には、キハ40形の引退イベント時に車両に付けられたヘッドマークなどが展示され、約2000人の鉄道ファンや親子連れでにぎわいました。

那須烏山と鹿沼の祭り 県内外に魅力を発信！

那須烏山市と鹿沼市の連携により国から採択された「下野の国二大祭り×2市」まちの賑わい∞プロジェクトを推進する地域文化活用促進協議会と両市によるイベントが開かれましたので、その様子を紹介します。

まちづくり研究会活動報告会

各団体が1年間の活動成果を発表

本市を活性化するために県内5

大学や鳥山高等学校などで構成され活動する那須烏山市まちづくり研究会(福島二朗委員長)では、2月26日(日)、那須烏山商工会館で「活動報告会」を開催し、地域住民など約140人が参加しました。

これは、同研究会のほか、市内で活動するボランティアやNPOなどの市民団体が1年間の活動を紹介し、情報交換をする場として毎

年開催されています。

当日は、同研究会に所属する足利工業大学、宇都宮共和国、白鷗大学、文星芸術大学、帝京大学、鳥山高等学校や、NPO法人野うさぎくらぶ、クロスアクション、街に賑わいを興す会により今年度の活動が報告されました。参加者たちは市民カフェ35番館から提供されたコーヒーマグの味を堪能しつつ、発表に耳を傾けました。



右：現代版鳥山線鉄道唱歌を披露する鳥山高校の生徒たち／下：様々な活動の報告が行われたポスターセッション。

「現代版鳥山線鉄道唱歌」が完成！ 鳥山高生が報告会でお披露目

那須烏山市まちづくり研究会(福島二朗委員長)の足利工業大生や鳥山高生などが2014年より制作に取り組んできた「現代版鳥山線鉄道唱歌」が完成し、2月26日(日)に那須烏山商工会館で行われた「まちづくり研究会活動報告会」で鳥山高校吹奏楽部の生徒によって披露されました。

同唱歌は、昭和5年頃に制作されたと思われる「鳥寶線鉄道唱歌」を入手したのがきっかけで制作に着手。当時の歌詞の解明や、20編全文の

書き起こし、歌詞に登場する建物跡、風景などの調査を行い、4回ものワークショップを重ねて完成させました。

現代版では「山あげ」「アキム」「クジラの化石」といった単語も登場し、現代の市内の魅力が溢れる鉄道唱歌となっています。

全17編を高らかに歌い上げたあと、部長の関朋哉さんは「この鉄道唱歌でもっと那須烏山市が有名になれば」とあいさつしました。



下野国二大祭り

in YOKOHAMA

多くの観光客が集う人気スポットで両行事を披露することから、両市の知名度を高め、首都圏からの新たな誘客や交流人口の拡大を目指す。3月11日(土)・12日(日)、横浜赤レンガ倉庫で「下野国二大祭り in YOKOHAMA」が開かれました。

ユネスコ登録後に県外で実施するPRイベントはこれが初めて。「鳥山の山あげ行事」は、高さ約2メートルのミニチュア版のはりか山、舞台を設置し、歌舞伎演題「辰橋」を演じました。一方、「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」は、お囃子(はやし)団体4団体によるお囃子の競演「ぶっつけ」を披露し、大勢の観光客を魅了しました。

両市の物産販売では、地酒や



上：横浜赤レンガ倉庫で「辰橋」を披露。
下：フェスタで上映された短編映画「Re」。

そばなど特産品の売り切れが相次ぎ好評を博しました。また、本市に事業所を置くリンレイテーパー(株)から本市のPRを目的に同企業で製造するマスキングテープが寄贈され、イベント当日に物産を購入した観光客に向けてノベルティとして無料配布しました。

宇都宮オリオンスクエアで ショートフィルムフェスタ

那須烏山市と鹿沼市の魅力を発信するイベント「ショートフィルムフェスタ」が3月5日(日)、宇都宮市のオリオンスクエアで開かれました。

この日は、山あげ祭を視察する鹿沼市職員の奮闘ぶりを描いた短編映画「Re」が上映されたほか、会場内には、両市の特産物を販売するブースが出店し、魅力を発信しました。

サタデマンド

試行的に土曜日運行
はじめました。

市では、充実した公共交通整備に向け、4月から9月にかけて、デマンド交通の休日運行やデマンド交通以外の方法の可能性を視野に入れた実証実験として、祝日を除いた土曜日の新たな公共交通「サタデマンド」の運行を行います。

実証実験の運行区域は、現在デマンド交通を運行している烏山A、B地区と南那須地区の全地域で、デマンド交通利用登録者が対象。これまでのデマンド交通

との違いは、乗り合いではないことです。事業者は、デマンド交通を運行する市内3つのタクシー業者で、各業者1日10台（1時間に2台まで）運行します。

今後、市では、実証実験を踏まえて検証を行い、6月頃までに市内の公共交通のあり方などを検討する市地域公共交通会議で、デマンド交通の休日運行や代替交通機関の方向性を出す予定です。

◎デマンド交通・サタデマンド利用方法

○利用希望者は、**まずは事前登録が必要**です。

「デマンド交通利用登録申込書」に必要事項を記載のうえ、市役所（烏山庁舎）まちづくり課・南那須庁舎市民課・保健福祉センター（健康福祉課）・大金タクシードライバー（健康福祉課）・大金タクシードライバー（健康福祉課）・烏山合同タクシー・きずなサービスセンターのいずれかに提出してください。

※郵送及びFAXの場合は、「きずなサービスセンター」に直接提出する。

※ご案内のちらし及び利用登録申込書は、ホームページからダウンロードするか、申込書の提出先に設置してあります。

○登録が済んだら**希望する便の予約**をしましょう。

▽平日予約方法

・乗車希望の2週間前から当日利用する便の30分前まで予約可能。
・朝一の運行となる1便は前日までにご予約ください。

▽サタデマンド予約方法（土曜日のみの運行）

・前日までに電話で予約する。
予約先：きずなサービスセンター

（金井2-1-1）

電話0287-82-8252

FAX0287-82-8262

※土・日曜日、祝日、年末年始を除き、平日午前8時から午後5時まで予約可能。

○土曜日サタデマンドと平日は**料金が異なるので注意**しましょう。

・平日 片道300円

（障がい者・小学生150円、未就学児無料）

・土曜日（サタデマンド）

1台500円

※乗り継ぎ時毎に料金が発生します。

■問合 まちづくり課

☎0287-83-1151



クロスアクションと帰農志塾

味噌作り&うどん打ち体験を開催

クロスアクション（高橋誠一

代表）と帰農志塾（戸松正代表

による「帰農志塾で親子de

味噌作り&うどん打ち体験」

が2月26日（日）、中山の同塾を

会場に開かれ、親子連れ約40

人が参加しました。

当日は、同塾塾長の戸松正

行さんを講師に味噌作り、さ

らに小砂綿部農園の綿部隆太

さんを講師にうどん打ちの体

験が行われ、参加した子ども

たちは慣れない手つきで奮闘

する姿が見られました。

両体験が終わると、自分た



味噌作りを見学する子どもたち。

ちが打ったうどん、有機栽培の野菜や味噌を使った味噌煮込みうどんを堪能しました。

きずなdeサロン バルーンアートに挑戦



バルーンアートに挑戦する参加者。

地域情報共有サービスや子ども見守りなどを行う株式会社きずなサービスセンター（武井令子代表が、2月26日（日）と3月4日（日）、市民の交流の場として「バルーンアート教室」をJR烏山駅前の「ぷらっと」で開き、地域住民35人が参加しました。

当日は、高さ約50cm、幅30cmのラッピングバルーンづくり

に挑戦。複雑な作業に苦戦しながらも、全員が満足のいく作品を完成させました。このほか、同センターでは、平成27年12月から、市内外の人々がボランティアとなつて市を中心とした様々な地域情報を発信する「来てみつけ！なすから」のサイトを運営するなど様々な取り組みを行っています。

まちづくり
チャレンジプロジェクトを
活用した地域おこし多彩に。

募金を手渡す児童たち(中央)。



公園に遊具を！

荒川小4年生の児童が 市に寄附金を贈呈

3月22日(水)、荒川小学校4年の児童らが少子高齢化や人口減少が進む市の地方創生を支援しようとした募金活動で集めた8万8869円と陳情書を持って市役所烏山庁舎を訪れました。

この活動は、同校の4年生の児童約30人が、昨年9月から「総合的な学習の時間」を活用し、市の少子高齢化や人口減少問題などに危機感を持った子どもたちが「自分たちのまちになにかできないか」と話し合いを始めたことがきっかけ。保護者への聞き取り調査なども行った結果、「市内に公園が少ない」といった意見をまとめ、1月から公園への遊具設置のための募金活動を開始しました。活動では、児童が手作りした観光ガイドやポスターを手に、市内のスーパーマーケットで買い物客などに募金を呼びかけました。

訪問当日は、吉成健校長、4年生学年主任永山隆博教諭、4年の石川陽菜さんと小松鈴奈さんが市役所を訪れ、募金と手書きの陳情書を大谷範雄市長と田代和義教育長に手渡しました。

小松さんは、「募金を集めるのは大変だったけど、大きな声で呼びかけたりポスターを描いたりして目を引くことができた。みんなが楽しく遊べる公園になってほしい」と話していました。

災害ボランティア「チーム龍J-IN」

今年も石巻の復興住宅に桜植樹



熊野復興住宅の皆さんと桜を植樹した同メンバーら。

災害ボランティア「チーム龍J-IN」(小堀恵美子代表のメンバー8人が、3月20日(祝)、宮城県石巻市牡鹿半島の鮎川浜熊野復興住宅と鮎川浜黒崎の民宿を訪れ、東京都世田谷区のNPO法人「さくら並木ネットワーク」から提供された桜の苗木15本を植えました。

桜の植樹は4年目。毎年同メンバーが訪れている牡鹿地区から「復興住宅が完成した際には必ず植樹に来て欲しい」と要望されていたこともあり、今年も実施する

こととなりました。これまでに6か所に約70本を植樹しています。当日は、高さ約2mの「しだれ桜」や「ジンダイアケボノ」を住宅の側面などに植樹しました。

福島県富岡町で被災しながらチーム龍J-INの活動に参加している郡山市の齋藤秀雄さんは「帰還困難区域指定の富岡町の復興はとても困難だが、牡鹿地区の皆様の希望の桜になることを願って植樹した。一緒に花見ができれば嬉しい」と話していました。

交通安全協会・烏山ロータリークラブ

子どもたちの安心と安全を守るグッズを寄贈

市と那須烏山交通安全協会

(篠崎昌久会長は、子どもたちを交通事故から守るため、市教育委員会に反射タスキ235本を

寄贈しました。

3月15日(水)に南那須庁舎を訪れた篠崎会長は、「反射タスキは車のドライバへの効果が高い。子どもたちの安心・安全に寄与できれば」と、田代和義教育長にタスキを贈呈しました。このタスキは、学校を通じて新中学1年生全員に配付されます。

3月14日(火)には、烏山ロータリークラブ(渡辺大明会長が、新1年生203人分の黄色いランドセルカバーを寄贈しました。

この活動は、同クラブが38年前から毎年行っている地域社会奉仕活



タスキを贈呈した篠崎会長(左)。



ランドセルカバーを手渡す同クラブのメンバー。

動の一つで、贈呈したランドセルカバーは、今回で計1万2349人分。同クラブのメンバーは、「子どもたちの安心・安全のために役立ててほしい」と話していました。

全国地域青年実践大賞

横枕青年団が準実践大賞を受賞

横枕青年団(生魚貴宏団長)が、全国地域青年実践大賞(日本青年団協議会主催)で、全国で2位となる準実践大賞を受賞しました。

同青年団は、子どもたちにこの地域に住んでいて良かったと思ってもらえるような地域おこしをしようと平成22年に発足。以降、「どろリンピック」や「ほたる祭り」、「花火大会」など年間をとおして様々な催しを開いています。中には、クチコミで広がり、県外からの参加者もいるほど人気のイベントもあります。

審査員からは、「那須烏山市の中



準実践大賞を受賞した青年団の皆さん。

でも小さな地域にも関わらず、青年団員だけでなく、地域住民が一体となって活動していることが素晴らしい」と評価されました。

生魚団長は、「まちが少しでも元気になれば良いと思う。今年から、烏山高校の生徒もボランティアで参加してくれるので、活動をとおりし、若い世代の人材育成ができれば」と話していました。また、団員の掛札研輔さんは、「カタチになって表彰されたことは嬉しい。今後頑張りたい」と喜びを語ってくれました。

同青年団では、4月30日(日)に横

トウー！ピー！ヨッシャ！お笑いライブ 那須烏山市でラスト公演迎える

県内各地で行われていたお笑いライブ「トウー！ピー！ヨッシャ！LIVE」(よしもとクリエイティブ・エージェンシー主催)のラスト公演が3月29日(木)に烏山公民館で行われ、地域住民約100人がお笑いを楽しみました。本市では横枕青年団の協力により、3回目の開催となるライブには、栃木県住みます芸人の「上原チヨ」をはじめ、「GO!皆川」、「ヨッシャ比留間」といった芸人のほか、群馬県や茨城県の住みます芸人が参戦し、会場を笑いの渦へと引き込みました。



ラスト公演となったライブ。

枕公民館付近の水田で「第5回どろリンピック」を開催する予定です。

シリーズ 市の文化財 第72回

市指定有形文化財(建造物)

かながもん からすやまじょううらもん
神長門(烏山城裏門)



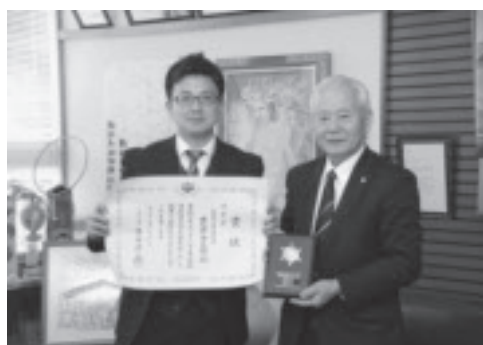
烏山城主堀親昌は、寛永17年(1640)に追手門と神長門を創建し、万治2年(1659)には三の丸を造営するなど、城内の整備を進めました。神長門は、城の搦手口を守る重要な城門として、現在の市役所烏山庁舎南側付近に建てられました。

この城門は、高さ約450cm、正面幅約720cm、高麗門と呼ばれる形式の門です。堀家創建時の門ではなく、江戸時代末期頃に建て替えられたと推測されますが、烏山城で唯一残る建造物として大変貴重です。現在は野上地区の民家に移築され、国道294号沿いに雄大な姿を見ることができます。

70年に一度のチャンス 全国消防団員意見発表会に齋藤さん

3月12日(日)に東京都で開かれた「平成28年度全国消防団員意見発表会」に、市消防団第2分団第1部の齋藤晋太郎さんが出場し、優良賞を受賞しました。

この発表会は、消防団員数の減少や高齢化などの全国的な課題に対し、特色ある活動を行っている若手・中堅団員や女性団員が活動意欲を喚起する意見を発表するもの。毎年、各市町村から輪番制で出場するため、一度回って来ると次の出場は約70年後となる貴重な発表会です。当日は、全国から選出された



意見発表会に出場し優良賞を受賞した齋藤さん(左)。



4月からJFAアカデミー福島へ入校した藤田さん。

滝田 藤田颯斗さん

15倍の難関突破



春からJFAアカデミー福島へ

目指すは夢のJリーグ選手

3月に七合小学校を卒業した滝田の藤田颯斗さんが、中高生を対象にエリート選手育成を手掛ける公益社団法人日本サッカー協会の「JFAアカデミー福島」に合格し、4月から入校しました。

今回の男子の受験者数は249人で合格者はわずか16人と倍率は驚異の15倍。藤田さんは、日本サッカー協会が昨年実施したトレセン対抗戦「フューチャープログラム」の県選抜チームに選出されたことで、2次選考からの参加となり、基礎体力テストや実戦形式の試験で実力を発揮し、見事合格となりました。栃木県からは、今回2人が合格。本県出身選手としては男女通

算で10人となりました。同アカデミーは、多くのプロ選手を輩出してきたJFA直営の育成機関。6年間のカリキュラムの中には、サッカーだけでなく、英語やマナーといった教養を身に付けたり、相撲部屋での稽古に参加したりするなど様々な体験も行われます。

現在は、東日本大震災の影響で福島県内から静岡県御殿場市に一時拠点を移しているため、4月からは、御殿場市の富士岡中に進学し、全国各地から集まったライバルたちとともに寮生活を送ります。県内の少年サッカーチームとも

どうSCの主力メンバーとして活躍していた藤田さん。プロ選手になる夢を叶えるためにも、入校後は「DF（ディフェンダー）としての技術を磨き、レギュラーを定着させたい」と意気込みを語ってくれました。

そんな藤田さんを支え続ける母の友美さんは、「今までお世話になった人への感謝の気持ちを忘れずに大きな夢を持って頑張ってほしい」とエールを送りました。

各地で活躍する若手・中堅消防団員11人が出場。齋藤さんは、「地域防災と私をテーマに、中学生の時に自宅が火事になったことや、自らが消防団に入団してから意識の変化」「地域防災」の重要性などについて発表しました。

齋藤さんは、「意見発表会に出場するにあたり、地元消防団や事務局の方々などいろんな人に支えられ、改めて絆の強さを実感した。これからも消防団活動、また、普段の仕事に身を引き締めて取り組んでいきたい」と話していました。

青年海外協力隊の赤野さん 手工芸の技術をボリビアへ

志鳥の赤野百合恵さんが、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊の一員として、4月から2年間、手工芸の技術を伝えるにボリビア・コチャバンバ県ティキパヤ市へ出発します。

参加しようと思ったのは、大学時代に訪れた東ティモール民主共和国での貧困問題などに衝撃を受け、困っている人を助けたいという気持ちが芽生えたことがきっかけでした。

現地では、日本人女性の施設長が運営する障害者自立支援施設で、自立支援を目的に施設利用者に対して、家庭で制作できる新しい商品アイデアの提供や、手芸、陶芸、アクセサリーといった手芸品制作の技術支援を行う予定です。

3月21日、出発を前に大谷雄市長を表敬訪問した赤野さんは、「現地の人と交流を深め、自分ができることから始めたい。派遣をとおして様々なことを学び将来につなげられれば」と目標を語ってくれました。



市長を表敬訪問した赤野さん（右）。

卒業・卒園おめでとう



▲七合保育園。

思い出の校舎や園舎にお別れ

3月1日(木)の烏山高校の卒業式を皮切りに、9日(木)に中学校、17日(金)には小学校で卒業式が開かれたほか、幼稚園・保育園でも卒園式が相次いで開かれ、たくさんの方の思い出を胸に校舎や園舎にお別れをしました。

2つの中学校では243人、5つの小学校では217人が卒業。幼稚園・保育園からも大勢の園児が卒園し、4月からは新一年生として真新しいランドセルを背負って元気に登校しました。

ここでは、卒業・卒園の様子を写真でいくつか紹介します。



▲つくし幼稚園。
▲南那須中学校。



③



②



①

烏山高校で合格発表

179人に吉報届く

県内公立高校の合格発表が一斉に行われた3月10日(金)。烏山高校でも午前10時、合格発表が行われ、179人に吉報が届きました。合格者番号が張り出された校舎には、大勢の受験生や保護者などが合格を喜びあう姿が見られました。



合格を喜びあう受験生や保護者。



⑤



④



⑦



⑥

①烏山聖マリア幼稚園 ②烏山中学校 ③七合小学校 ④烏山みどり幼稚園 ⑤境小学校 ⑥江川小学校 ⑦ゆうゆうランド那須烏山園。

けんこうコラム① なんぼでも★Let's 健活

平成29年3月、なすからすやま健康プラン第2期計画～みんなで延ばすべ！^{けんこう}健康寿命～を策定しました。それに伴い、保健師や管理栄養士が健康情報を1年間通して発信し、皆さんの健康活動を応援します。

計画策定時、市の運動・身体活動面において『運動を習慣づけて実施する人が少ない』という課題が出ました。運動を習慣化している人の割合は、20歳代男性は24.4%、女性は7.9%、30歳代男性は15.3%、女性は4.0%でした。60歳代男性は22.4%、女性26.4%に比較すると、若い年齢層が運動に取り組めていない状況がわかります。

若い年齢層は育児や就労等があり、とにかく忙しい！！そして、運動は必要だとわかっていても、ついつい“やれない理由”を考えてしまいがち。そのため、特に時間がない若い年齢層の方には『隙間時間に身体をなんぼでも(いくらでも)動かすこと』をお薦めします。体を動かすことは、筋肉の維持・向上に役立つほか、ストレス発散や美容効果を得ることに繋がります。

春は、別れと出会いの季節。脂肪と別れを告げ、美しさを手に入れましょう。健康という素敵な宝物に出会えるかもしれません。颯爽と歩くその背中には“背中美人”ならぬ“なすから美人”！！

～おすすめ！タオル1本なんぼでも運動～

背中、肩甲骨の周りには『褐色脂肪細胞』が多くあり、ここを鍛えることで代謝がアップし痩せ体質をつくることができます。

今回はこの褐色脂肪細胞を刺激する背中、肩甲骨を意識した体操をご紹介しますので、隙間時間にぜひ取り組んでみてください。

【やり方】

- ①左右の手でタオルの端を持つ。
- ②そのままタオルを頭の上まで持ち上げ、息を吐きながら肘を引いて体の後ろに下ろす。
- ③息を吸いながら再びタオルを持ち上げる。
- ④10回繰り返す。



～健康増進グループ保健師より～

消費者コラム① 消費者ほっと♥らいナビ

これから毎月、消費生活に関する「ほっと」な話題をお届けします。掲載される情報を役立てて「ほっと」安心した豊かな生活を送れる、賢い消費者を目指しましょう。今月は、消費生活センターについてご案内します。



Q1. 消費生活センターってどんなところ？

A1. 衣食住など消費生活全般に関する商品・サービスへの苦情や相談について、問題解決のお手伝いをしています。各種パンフレットや資料の提供、講座の開催などの啓発活動も行っています。

Q2. 消費生活センターに相談するとどんなことをしてくれるの？

A2. 専門の相談員が、公平な立場で苦情や相談を主に電話で受けています。事業者と商品やサービスに関わるトラブルが生じた場合は、問題解決に向けての情報の提供や助言を行います。自主交渉では解決が困難な時などには、消費生活センターが業者とのあっせんを行います。

Q3. 相談に費用はかかりますか？

A3. 行政サービスなので無料です。

Q4. 本人でなくても相談できますか？

A4. トラブルが起きたときの状況や、どうしたいのかの意向を確認するためにも、本人が直接相談することが原則です。認知症や病気などで本人が相談することが困難な場合は、家族や周囲の方はできるだけ詳しく状況を把握してから相談してください。

Q5. 相談の秘密は守られますか？

A5. 外部に漏れることはありません。ご安心ください。また、本人の承諾を得ずに事業者に連絡することはありません。

Q6. 消費生活相談の情報はどのように生かされますか？

A6. 同種事例の問題解決の参考となったり、悪質な事例等を公表することにより被害の未然防止や拡大防止に役立ちます。同様の事例が頻発して法規制や制度の問題が明らかになれば、事業者や関係省庁に情報提供や要望等を行うこともあります。

那須烏山市消費生活センター（烏山庁舎1階、商工観光課内）

【専用電話番号】0287-83-1014

【受付時間】平日9:00～12:00、13:00～16:30

※土・日曜日及び祝日は「消費者ホットライン ☎188（局番なし）」へご相談ください。

ふじた体験むら いちご・パンまつり

完熟いちごと焼きたてパンが大人気

南那須観光いちご園やパン職人いっぴなどが組織する実行委員会（小濱克己実行委員長）による「いちご・パンまつり」が3月11日（土）、ふじた体験むらで開かれました。

毎年県内外から家族連れなど大勢の観光客が訪れる人気のこのイベント。今年も、完熟したいちごの香りが漂うビニールハウスでは、「とちおとめ」「や」とちひめ」のいちご狩りが行われ、摘みたてのいちごをおいしそうに頬

張る姿が見られました。

また、会場では、パン職人いっぴの焼きたてパンやクッキー、藤田自慢会による手打ちそば、農産物などの販売が行われ、完売が続出するほどの盛況ぶりでした。さらには、いちご狩りをした人や買い物をした人を対象に、いちご一箱や手作りクッキーなど豪華賞品が当たる「お楽しみ抽選会」も行われ、盛り上がりを見せました。



いちご狩りを楽しむ子どもたち。



完売続出のいっぴのパン。

鳥山マルシェ

手作りや無農薬野菜といったこだわりのあるものを出品者が提案し、消費者が質の良いものを選んで購入するということをコンセプトに、鳥山マルシェ実行委員会（村山佳奈子実行委員長）による「鳥山マルシェ」が3月19日（土）、山あげ会館西側広場で開かれました。

昨年続き2回目の開催となったマルシェには、市内外から19の店舗が出店。素材を重視した食べ物やお菓子、無農薬野菜の

那須鳥山での暮らしをもっと楽しく。

販売のほか、ワークショップや展示、ヨガ体験など様々な店が並びました。食器などの使用、エコも意識したイベントとなりました。

村山実行委員長は、「目の前にあるものをただ消費するだけでなく、作り手にこだわって作ったものを知ってほしい。選択の一つとして入れてほしいと思った。これからも消費に対して考えられるようなイベントを企画していきたい」と話していました。



にぎわいを見せたマルシェ。



まちのわだい

◇「広報なすからすやま」では、みなさんからの楽しい話題を募集しています。地域の行事や変わった出来事などをお知らせください。可能な限り取材に伺います。

総合政策課広報統計グループ ☎0287-83-1112

東力士酒蔵まつり 1700人が地酒とグルメ満喫

168年前の嘉永2年に創業の地元酒造である(株)島崎酒造による「東力士酒蔵まつり」が、3月18日(土)、19日(日)に開かれ、市内

外から地酒ファンなど約1700人が訪れました。

毎年恒例となったこのイベント。他ではなかなか見るこ



「罎取り」の実演。



会場は大勢の地酒ファンでいっぱい。

とのできない「罎取り」の実演や、まつり限定酒の販売や酒の試飲、酒のきき当てコーナーなど好評を博しました。

また、酒蔵見学のほか、第二次世界大戦末期に戦車を製造するために建造された地下工場跡を利用した「どうくつ酒蔵」も開放され、大勢の人が足を運びました。

そのほか、昨年のまつりでも好評だった「酒蔵レストラン」も2日間限定でオープン。蔵元の接待用の酒蔵VIPルームで、各日24人限定で酒とあわせた創作料理が提供され、ファンの舌を唸らせました。

南那須地区スポーツ少年団 ドッジボールで交流深める

3月5日(日)、鳥山体育館で「南那須地区スポーツ少年団交流ドッジボール大会(南那須地区スポーツ少年団主催)」が開かれ、本市と那珂川町の各スポーツ少年団のうち9団体約90人が参加し、交流を深めました。

今回、交流を目的に初めての開催となったこの大会。所属団体や男女関係なく混合チームをつくり、低学年の部と高学年の部の各4チームで熱戦を繰り広げました。



ドッジボールで交流を深める子どもたち。

春の訪れを感じる

中山梅園で恒例の梅まつり

第18回梅まつりが、3月19日(日)、中山梅園と中山構造改善センターで開かれ、大勢の花見客が訪れ、春の訪れを感じていました。

これは、生産農家やJANAなど、南、市などで組織する実行委員会(大窪金夫実行委員長)が、梅の生産復興や地域活性化につなげようと毎年この時期に開催しているものです。

当日は、同梅園で採れた梅干しや、中山かぼちゃを使った「かぼちゃまんじゅう」などの加工品、寒ざらしそばを使用した「けちんちんそば」、直売所による野菜



輪投げを楽しむ子どもたち。



大勢の人でにぎわう会場。

の販売が行われ、大勢の人でにぎわいました。そのほか、輪投げや抽選会など様々な催しで花見客を楽しませました。



おめでとう★

赤ちゃん名 (保護者) 住所
 佐藤 健 (剛・裕子) 大里
 金田 陽 (太志・律子) 中央1丁目
 齋藤 慶 (祐一・暁江) 野上
 小田倉 永純 (涼麻・奈美) 滝田
 大森 望 (愛・仲哉・美沙希) 森田
 坂主 琉羽 (翔平・梓) 興野
 小池 未紗 (貞友・美由紀) 八ヶ代
 ※ここでは、保護者等の了解が得られた情報のみを掲載しています。

スポーツの結果★

●第12回市民スキー祭 (3月11日(土)、会津高原だいくらスキー場)

「小学生の部」▽優勝…安田知暉 ▽準優勝…大町虎ノ介 ▽第3位…長嶋千夏
 「女子の部」▽優勝…滝口真由美 ▽準優勝…中山寿子 ▽第3位…深見沙織
 「男子の部」▽優勝…磯田正 ▽準優勝…杉山昌弘 ▽第3位…松本智史

コンクールの結果★

○第25回全国書道・全国教育書道展

「第4部」▽全日本書写書道学会理事長賞…大鐘莉里奈(矢板東高2年・半紙)

「第3部」▽栃木県教育委員会教育長賞…片岡悠衣菜(南那須中3年・硬筆)

※()内の学校名や学年は、受賞当時のものです。

ご寄付ありがとうございます★

ふるさと応援寄附金

・岩崎泰治様(神奈川県横浜)、湯沢秀一様(東京都立川市)から1万円が本市に寄附されました。

・匿名希望者様7人から7万円が本市に寄附されました。

交通安全カーブミラーの寄附

・那須南農業協同組合(山田清組合長)から、交通安全カーブミラー1基が寄附され、宮原地内に設置されました。

雛人形の寄附

・鈴木清様(小山町)から、雛人形七段二



式が寄附されました。雛人形は、烏山商店街連合会主催の「雛めぐりスタンプラリー」開催期間に市役所烏山庁舎ロビーに来年度以降展示する予定です。

平成29年度

家庭ごみ収集カレンダーと 広報カレンダーを配布しています

平成29年4月から平成30年3月までの「家庭ごみ収集カレンダー」と「広報カレンダー」を3月に行政区長などを通して配布しました。

自治会未加入などで配布されない世帯については、下記窓口でお受け取りいただくことができます。

■家庭ごみ収集カレンダー

烏山庁舎(環境課・市民課)、南那須庁舎(市民課総合窓口)、保健福祉センター(健康福祉課)

■広報カレンダー

烏山庁舎(総合政策課・市民課)、南那須庁舎(市民課総合窓口)、保健福祉センター(健康福祉課)、南那須図書館、烏山図書館



編集後記



○新年度がスタートしました！私だけでしようか…、4月ってなんだかわくわくして何か新しいことを始めたいかなるんですよ。新しい趣味としてゴルフでも始めてみようかと考えています！(ちなみに3年前くらいから言っている今年こそ…笑)

○「広報なすからすやま」も今月号から何か新しいことを…と思ひ、健康と消費者問題に関するコラムを始めました！毎月ちよつとずつご紹介していきますので見逃さずにチェックしてくださいね。役立つ情報が盛りだくさんです！

○さて、この時期お馴染みの人事異動ですが、広報統計グループにも動きがありました。2年間をともにしたRくんが異動に。ちよつぱり寂しいですが、異動先の課でも頑張ってもらいましょう！そして、別れもあれば出会いもあるということで、新たにたつともともともフレッシュな新採用のOさんが仲間入りです！一緒に取材に出る機会があると思いますので、みなさんよろしく願います😊



Information

新着図書

南那須図書館 ☎0287-88-2748 Fax88-0204
 烏山図書館 ☎0287-82-3062 Fax82-7566

★図書館HPから新着図書が検索できます。★
<http://www.lib-nasukarasuyama.jp/>

★一般図書★

『人生は曇るときどき晴れがちょうどいい』 斎藤 茂太
 『スマホ片手にお遍路旅日記』諸原 潔
 『お嬢様、「了解です」は上司にNGです。』 新井 直之
 『介護する息子たち』 平山 亮
 『一度見たら忘れない奇跡の建物』 MdN編集部
 『女子のやせ定食』 金丸 絵里加
 『図解でよくわかるトマトづくり極意』 若梅 健司
 『やさしい落語』 柳家 花緑
 『無意味な人生など、ひとつもない』五木 寛之
 『13歳、「私」をなくした私』山本 潤
 『産まなくても、産めなくても』甘糟 りり子
 『人間じゃない』 綾辻 行人
 『密室本能寺の変』 風野 真知雄

『芝公園六角堂跡』 西村 賢太
 『スウイングしなけりゃ意味がない』佐藤 亜紀

★児童図書★

『自信の育て方』 藤 美沖
 『どこまでも生きぬいて』 水谷 修
 『勉強が好きになる』 入江 久絵
 『いのちのひろがり』 中村 桂子
 『わたしのカブトムシ研究』小島 渉
 『どうして野菜を食べなきゃいけないの?』 せのお しんや
 『俳句でみがこう言葉の力』小山 正見
 『サイアク!』 花田 鳩子
 『こちらどらねこしんぶんしゃ』岡本 一郎
 『こんなかおできる?』 磯 みゆき
 『コウノトリのコウちゃん』かこ さとし
 『ペンギンかぞくのおひっこし』刀根 里衣
 『ハッピーイースター』 ヨシエ
 『はじめてのぎょうじ』 無藤 隆

2017.3.1現在
 ()対前月比

人口 26,466(-23)

男 13,082 女 13,384

出生 9 死亡 30

転入 60 転出 62

世帯数 9,405

市の人口

※平成27年国勢調査を基に集計した統計人口です。

作品集募集

毎月10日までに、総合政策課広報統計グループ
 (〒321-0692 那須烏山市中央1丁目
 1番1号)あて、郵送で作品をご応募ください。

糸目美しく足袋の綻び繕いし母想いつつ靴下を継ぐ 水上キヨ子(志 鳥)
 那珂川と那須岳望む直線に枝垂れ桜植う吾は見ずとも 鈴木 豊(谷浅見)
 降りしきる雪は現世を覆いつつ幽玄の世界にいざなう如く 石川 ミチ(大 桶)
 引退か 気動車キハ40 哀愁の発車の汽笛はもう聞こえない 安藤 伯麗(旭)

短歌

福澤 悦子 選

ツアー客停車のたびにだす財布 荻野目香津(中央)
 雨上がり気に入りの傘置き忘れ 早津 悦子(野上)
 お迎えは蛇の目に変わり自家用車 吉澤 恒子(落合)
 平凡に見えてもあつた浮き沈み 小川 昌子(向田)

川柳

篠崎 酔月 選

春を待つ軒下に猫蹲り 小針 久子(月次)
 ソーラーに蔽はれし山春寒し 杉原キミヨ(志 鳥)
 紅梅白梅プレミアムフライデー 水野 信一(月次)
 だんだんと豆まきのこゑ高くなり 塩坂美枝子(南大和久)

俳句

齋藤 穂 選

文芸コーナー★

足利銀行(南那須)さん後ろ 中学生対象の補習系学習塾

歩-Ayumi-塾

☆入塾金 0円! 新1年生は初月の授業料 0円!

☆無料体験もあるので、まずはお電話を!

☆各学年には定員がございます。

「チラシを見た」とご連絡下さい

☎090-5423-4499(代表者:佐藤 諒)

おかげ様で34年!

三井住友海上代理店

(有)しおや保険事務所

◇損害保険:GKくるま・自賠責・GKすまい・地震

◇生命保険:総合収入保障・三大疾病・女性疾病・介護

■問合 〒321-0526 那須烏山市田野倉383

☎ 0287-88-9870

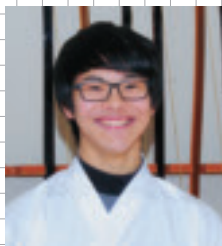
FAX 0287-88-0234

シリーズ

鳥山高校ってこんなところ！部活動を知ろう編⑬

弓道部

広報「なすからすやま」では、鳥山高校の部活動で頑張る生徒を紹介します！



3年(南1丁目)
部長 大森洸亮さん

全員が初心者ですが、お互い切磋琢磨しながら、金井キャンパスにある弓道場で毎日元気に稽古を積んでいます。
気になる新入生は、まずは見学へ！弓道場でお待ちしています。

9人の部員で活動する弓道部。高校に入学してから弓道を始めたというメンバーがほとんどですが、外部コーチで市弓道部の相田日出男さんに指導を受けながら、「弓道初段」の取得を目標に一人ひとり腕を磨いています。
昨年度の大会では、全国高校総体インターハイ県予選で女子団体が決勝に進み、11位という結果を残しました。「的にただ当てるだけでなく、フォームが大切」と話す部員の皆さん。4月に行われる県総体兼関東大会予選では、個人・団体ともに決勝進出に向けて練習にも気合が入ります。



三味線の演奏に挑戦する子どもたち。



親子でサンドアートを体験。

こども館ハッピー感謝デー

大勢の親子連れでにぎわう

3月18日(土)、こども館で来館者へ日ごろの感謝の気持ちを込めた「ハッピー感謝デー」が開かれ、親子連れ約100人が訪れました。

当日は、1歳児未満の乳児を対象としたオイルを使ったベビーマッサージや、砂を使ったサンドアート体験、こども常磐

津教室の子どもたちによる三味線の演奏が行われました。演奏会では、演奏のほかに、来場した子どもたちが三味線に触れる時間も設けられ、子どもたちは、初

めて触る楽器に目をキラキラと輝かせていました。中には、楽譜を読み演奏までできるようになった子もいたようです。

そのほか、2年前からこども館で好評の子ども服やぬいぐるみなどを無料で譲り合う「なのはなりサイクル」も行われ、大勢の親子が利用しました。

また、イベントの終了後は、那須烏山市婦人会のメンバーが手作りの「すいとん汁」が無料で配布され、親子で会話を楽しみながら手作りの味を楽しみました。